

羽幌病院について

1 留萌中部の人口推計

2 病院の概要

- ① 病院の概要
- ② 職員の配置状況(再任用職員を含む)

3 病院の現状

- ① 患者数・病床利用率
- ② 1日平均患者数
- ③ 診療科毎の収益(入院)
- ④ 診療科毎の収益(外来)
- ⑤ 主な診療科の状況(入院)
- ⑥ 主な診療科の状況(外来)
- ⑦ 非常勤医師のみの診療科の状況(外来)
- ⑧ 医療機関連携・医師確保
- ⑨ 離島支援・人工透析
- ⑩ 地域連携
- ⑪ 受療動向
- ⑫ 各経営指標

4 年間事業実績の推移

5 羽幌病院の経営上の課題と方向性(案)

6 病院の今後の方向性

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)

【病院の役割・機能の最適化】

- ① 地域包括ケア病床(回復期機能)の機能維持
- ② 在宅医療の拡充
- ③ 患者減少を踏まえた規模の最適化

【地域連携】

- ④ 留萌市立病院との連携

【離島を含むへき地への診療支援】

- ⑤ 離島への支援やへき地診療

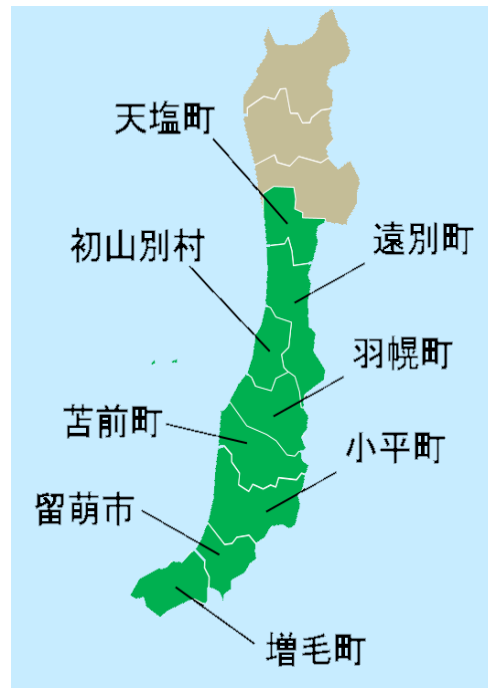
【医師を含めた医療従事者の確保】

- ⑥ 総合診療専門研修プログラムによる専攻医の確保

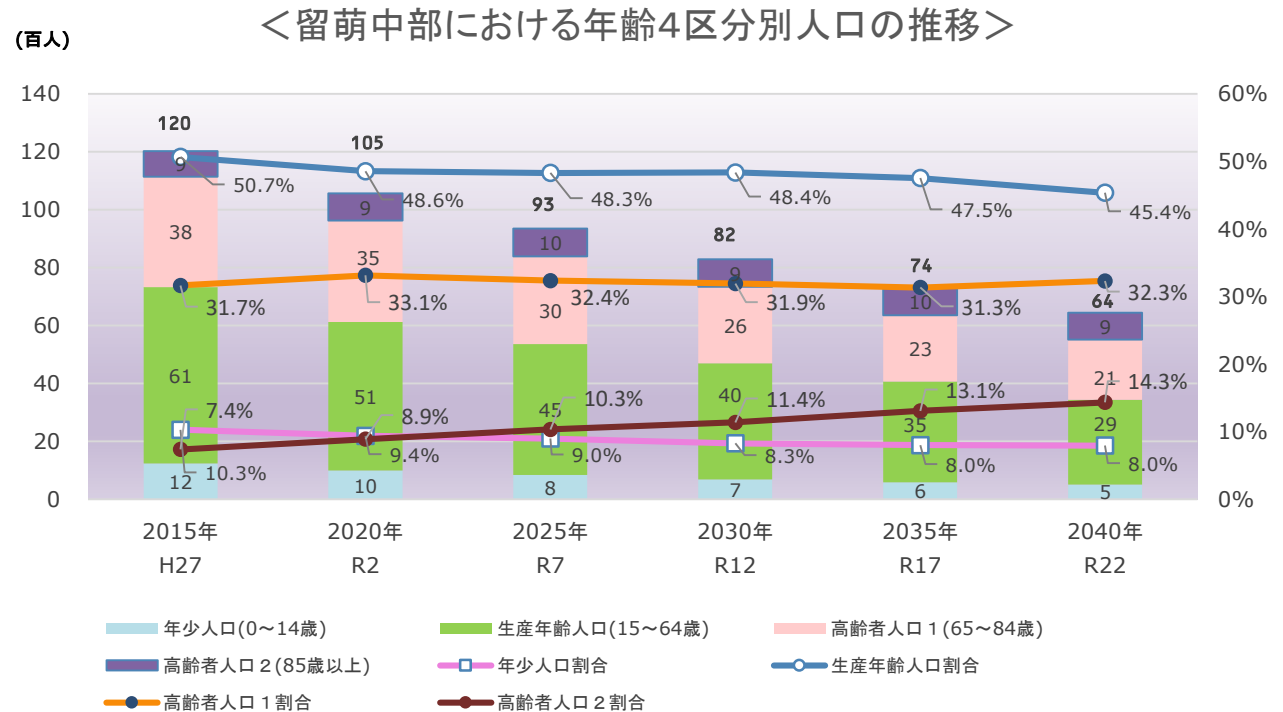
8 病院の今後の方向性(まとめ)

1 留萌中部の人口推計

- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、羽幌病院の主要患者となる留萌中部(羽幌町、苫前町、初山別村)の総人口は、今後も人口減が見込まれる。
- 年齢区分別では、2040年には総人口における高齢者人口が生産年齢人口を超えるため、医療と介護の複合ニーズを持つ者の増加と深刻な人材不足による医療従事者の確保が課題となってくる。



※留萌中部・・・羽幌町・苫前町・初山別村



2 病院の概要①

(令和6年(2024年)4月1日現在)

■所在地	苫前郡羽幌町栄町110番地
■病床数	許可：一般91床(運用：45床) 4階病棟 60床(運用：45床) ※うち15床は地域包括ケア病床 3階病棟 31床(休止)
■職員数	計72名(医師8、看護師36、医療技術者等17、事務11)
■診療科目	＜常勤医診療＞総合診療(内科、外科、整形外科)、小児科 ＜非常勤医診療＞内科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、 耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科
■指定医療機関等	地域センター病院、救急告示医療機関、総合診療専門研修プログラム基幹病院

<参考：高額医療機器使用件数>

	R1	R2	R3	R4	R5
C T	1,844	1,562	1,578	1,200	1,204
M R I	560	503	466	379	375

※現在使用機器の状況

C T：マルチスライス64列、R4.2～使用

M R I：1.5T、H27.9～使用



平成17年7月 現在の場所に移転改築

2 病院の概要②（職員の配置状況（再任用職員を含む））

【職員の配置状況】（人数：常勤換算）

※非常勤医師、会計年度任用職員は含まない

各年度4月1日現在		総計	医師	看護師	助産師	薬剤師	栄養士	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学技士	理学療法士	社会福祉士	事務職員
R1	定数 A	80	12	43	1	2	1	3	3	2	3	0	10
	現員数 B	68	8	36	1	2	1	4	3	2	2	0	9
	欠員 (B-A)	▲ 12	▲ 4	▲ 7	0	0	0	1	0	0	▲ 1	0	▲ 1
R2	定数 A	82	12	43	1	2	1	3	3	2	3	2	10
	現員数 B	68	9	34	1	2	1	4	3	2	3	0	9
	欠員 (B-A)	▲ 14	▲ 3	▲ 9	0	0	0	1	0	0	0	▲ 2	▲ 1
R3	定数 A	82	12	43	1	2	1	3	3	2	3	2	10
	現員数 B	74	8	39	1	2	1	4	3	2	3	1	10
	欠員 (B-A)	▲ 8	▲ 4	▲ 4	0	0	0	1	0	0	0	▲ 1	0
R4	定数 A	82	12	43	1	2	1	3	3	2	3	2	10
	現員数 B	67	5	36	1	1	1	4	2	2	3	2	10
	欠員 (B-A)	▲ 15	▲ 7	▲ 7	0	▲ 1	0	1	▲ 1	0	0	0	0
R5	定数 A	82	12	43	1	2	1	3	3	2	3	2	10
	現員数 B	72	7	37	1	1	1	4	3	2	3	2	11
	欠員 (B-A)	▲ 10	▲ 5	▲ 6	0	▲ 1	0	1	0	0	0	0	1
R6	定数 A	83	12	43	1	2	1	3	3	2	3	2	11
	現員数 B	72	8	36	1	1	1	4	3	2	3	2	11
	欠員 (B-A)	▲ 11	▲ 4	▲ 7	0	▲ 1	0	1	0	0	0	0	0

【参考(R6)】

会計年度任用職員6名（看護師2名、看護助手2名、薬剤補助1名、事務員1名）を任用

■非常勤医師

病院の診療体制を確保するため、常勤ではなく、必要に応じて専門的な知識や技術を必要とする場合に任用する医師
なお、非常勤医師には、月額報酬を受ける者と当直や月数回の外来のために任用している日額報酬を受ける者がいる。

■会計年度任用職員

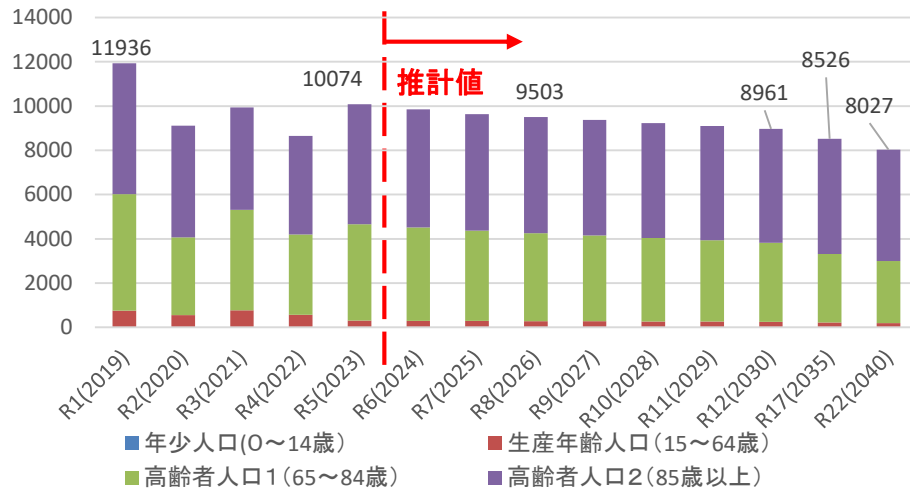
主に常勤職員が確保できない欠員の代替などで会計年度内において任用する職員

3 病院の現状①(患者数・病床利用率)

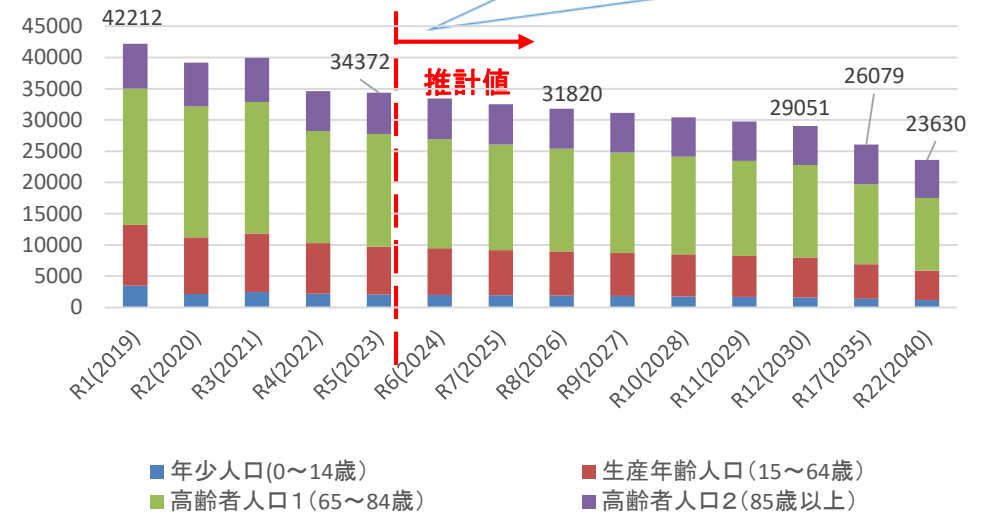
(1) 入院・外来患者数

○ 入院・外来ともに患者数が減少傾向。

【入院患者数推計】



【外来患者数推計】



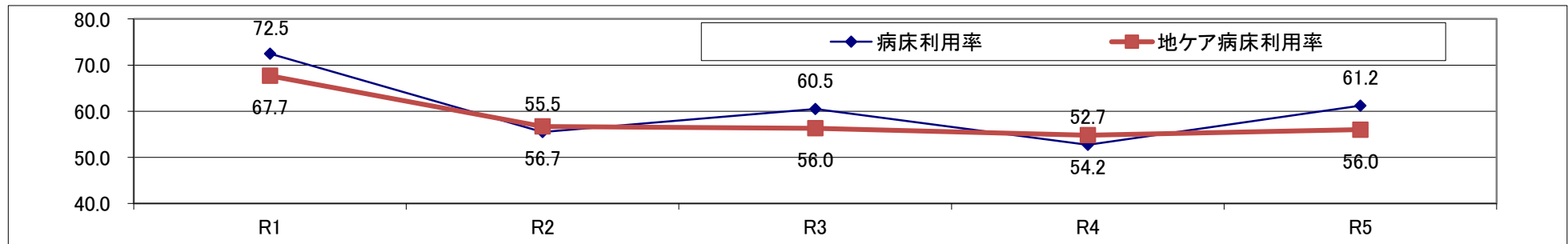
患者推計の考え方

$$\Sigma \left(\text{留萌中部の年齢階層別将来推計人口} \times \frac{\text{羽幌病院 年齢階層別 R5 年度患者数}}{\text{留萌中部の年齢階層別 R5 年度人口}} \right)$$

(2) 病床利用率(運用病床ベース)

○ 病床利用率は50~70%程度で推移。

○ 地域包括ケア病床は平成28年6月に開設(12床)。平成30年7月から3床増床し、現在15床。



3 病院の現状②(1日平均患者数)

(3) 1日平均患者数

※赤マーカーの囲いについては、患者数の多い診療科(スライド7, 8についても同様)

区分	診療科	診療体制		1日平均患者				
		(R6年4月1日現在)		R 1	R2	R3	R4	R5
入院	内科	常勤7		27.7	21.5	20.3	18.9	23.1
	外科			0.1	0.1	0.2	0.3	0.1
	整形外科			4.8	3.3	6.7	4.5	4.3
	小児科	常勤1		0	0	-	-	-
	計	常勤8		32.6	25	27.2	23.7	27.5
外来	内科(透析外)	常勤7 +非常勤(内科、 整形外科)	毎日	79.7	74.6	76.6	66.6	65.3
	内科(透析)			24.5	25.5	24.0	21.4	23.6
	外科			2.8	2.6	3.9	1.8	1.8
	整形外科			29.5	24.5	25.6	19.9	19.6
	産婦人科	非常勤	1/週(火)	4.5	4	4	3.7	3.8
	小児科	常勤1+非常勤	毎日	8.6	4	4	4.5	4.5
	耳鼻咽喉科	非常勤	第1.3.5(水)	3.3	3	2.8	2.6	2.8
	眼科	非常勤	1/週(火)	7.8	7	7.2	6.3	6.4
	皮膚科	非常勤	1/週(金)	8.3	7.7	7.2	6.6	7.2
	泌尿器科	非常勤	1/週(木)	5.9	6.2	5.8	5.4	6
	精神神経科 (継続受診のみ)	非常勤	1/月(木)	0	-	0.1	0.4	0.4
	計			176.3	159.1	161.6	139.4	141.4

【参考】診療体制(外来)が非常勤医師のみの診療科の状況(R5)

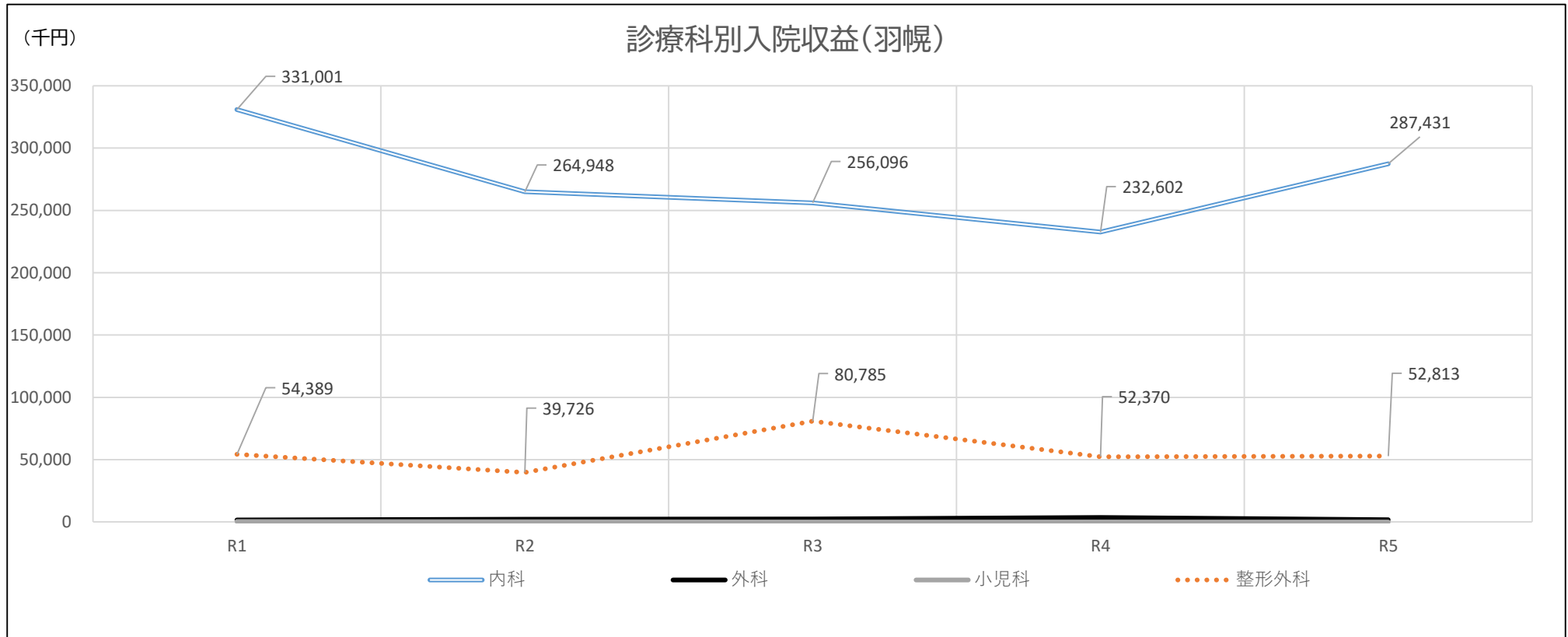
区分		産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	精神神経科
患者数		927	674	1,545	1,761	1,468	98
年間実診療日数		49	25	71	47	50	12
外来実診療日数における 一日平均患者数		18.9	27.0	21.8	37.5	29.4	8.2
収益(千円)	A	5,838	3,904	6,379	5,646	15,619	501
非常勤医師報酬・手当額(千円)	B	10,290	5,186	12,600	9,742	10,500	4,452
非常勤医師旅費(千円)	C	1,141	361	1,120	996	956	264
医薬材料費(千円)※	D	22	15	11	107	4,283	
差(A-B-C-D)(千円)		▲ 5,615	▲ 1,658	▲ 7,352	▲ 5,199	▲ 120	▲ 4,215

※手術等で包括されるものを除く。薬剤については、費用ではなく収益から試算したため、過大となっている。

3 病院の現状③(診療科毎の収益(入院))

入院		収益(千円)				
病院名	診療科	R1	R2	R3	R4	R5
羽 幌	内科	331,001	264,948	256,096	232,602	287,431
	整形外科	54,389	39,726	80,785	52,370	52,813
	外科	1,516	2,164	2,344	3,647	1,701
	小児科	310	172	-	-	-
	計	387,217	307,010	339,224	288,619	341,945

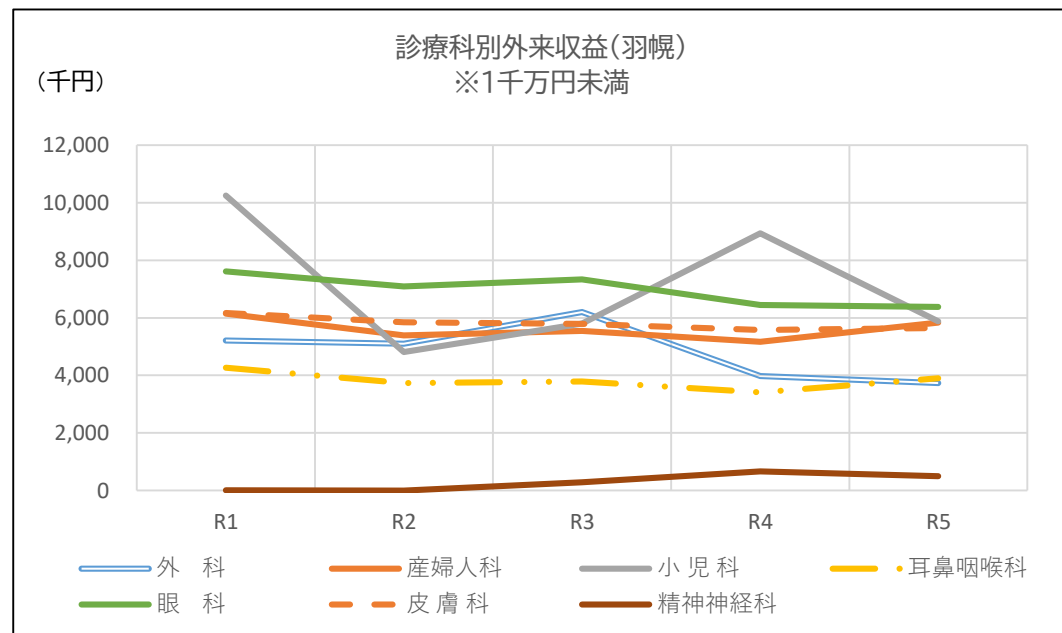
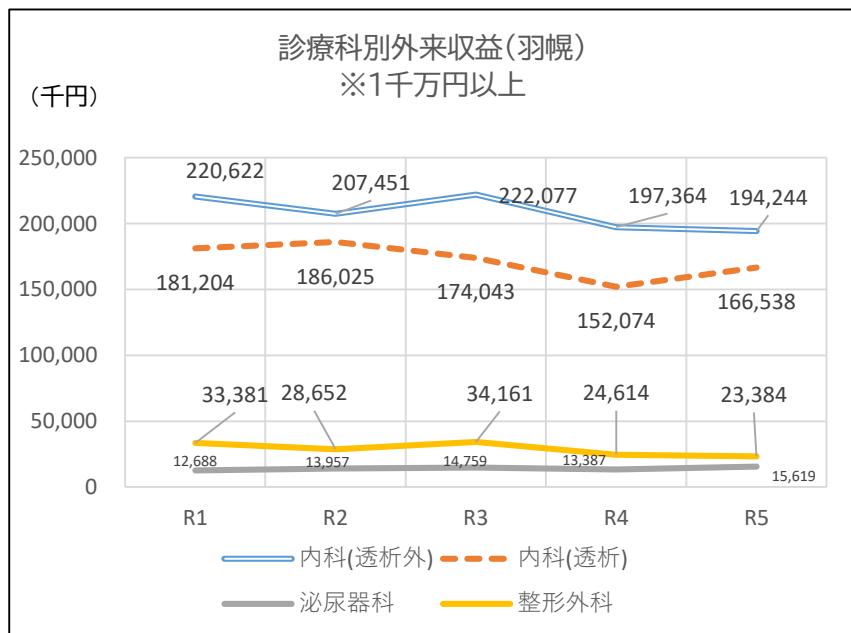
入院		収益単価(円)				
病院名	診療科	R1	R2	R3	R4	R5
羽 幌	内科	32,682	33,721	34,486	33,789	33,983
	整形外科	31,026	33,133	33,054	31,191	33,447
	外科	33,697	44,154	38,426	39,216	45,968
	小児科	31,017	43,018	-	-	-
	平均	32,105	38,506	35,322	34,732	37,800



3 病院の現状④(診療科毎の収益(外来))

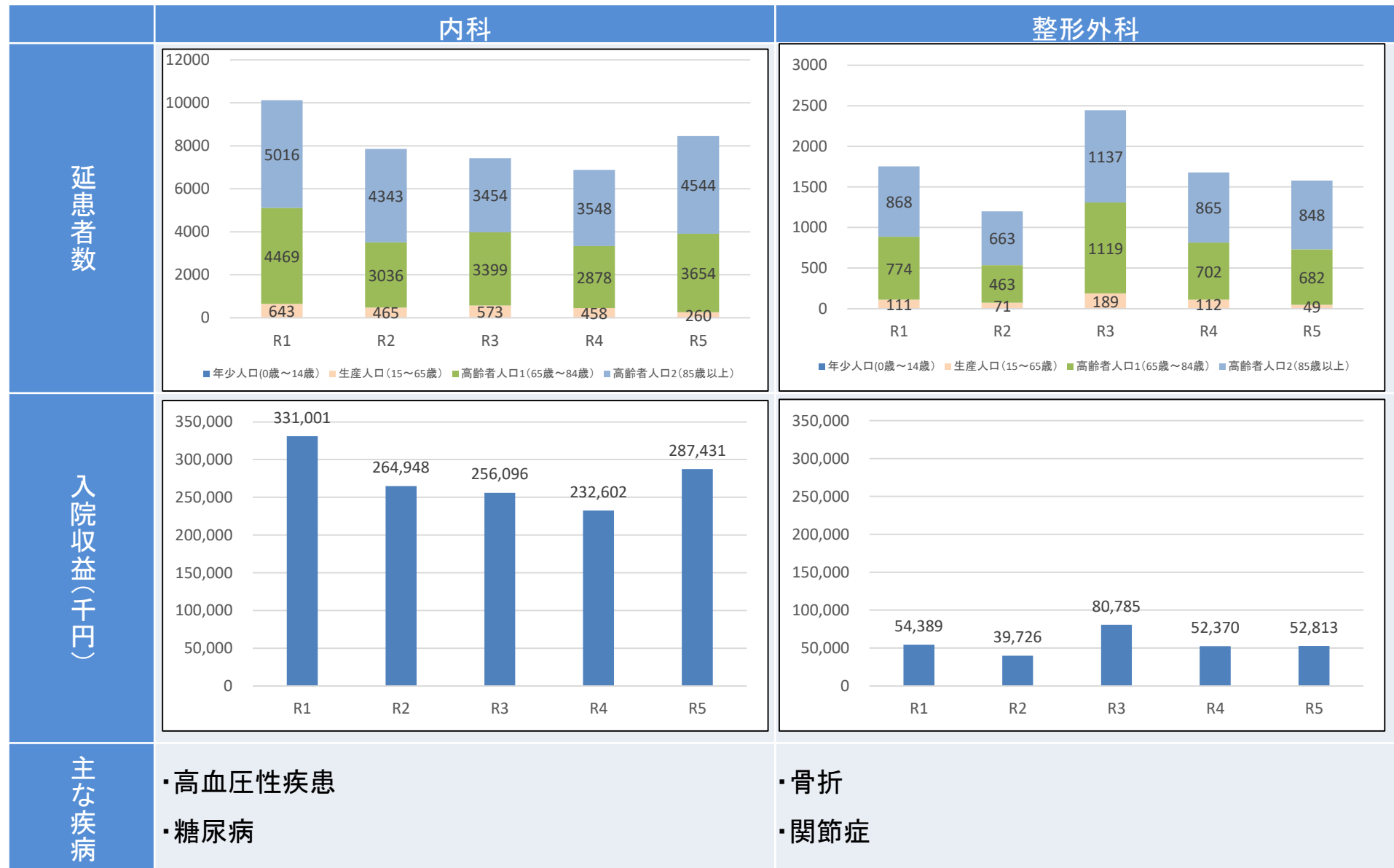
外来		収益(千円)				
病院名	診療科	R1	R2	R3	R4	R5
羽 幌	内科(透析外)	220,622	207,451	222,077	197,364	194,244
	内科(透析)	181,204	186,025	174,043	152,074	166,538
	外 科	5,149	5,085	6,201	3,979	3,730
	産婦人科	6,011	5,371	5,542	5,169	5,838
	小 児 科	10,134	4,783	5,805	8,936	5,880
	整形外科	33,381	28,652	34,161	24,614	23,384
	耳鼻咽喉科	4,183	3,713	3,783	3,406	3,904
	眼 科	7,453	7,061	7,331	6,442	6,379
	皮 膚 科	6,053	5,818	5,788	5,574	5,646
	泌尿器科	12,688	13,957	14,759	13,387	15,619
	精神神経科	2	-	289	665	501
	計	486,879	467,914	479,779	421,609	431,665

外来		収益単価(円)				
病院名	診療科	R1	R2	R3	R4	R5
羽 幌	内科(透析外)	11,391	11,444	11,936	12,203	12,244
	内科(透析)	30,393	30,004	29,904	29,211	29,024
	外 科	7,549	7,945	6,647	9,106	8,364
	産婦人科	5,571	5,594	5,755	5,743	6,298
	小 児 科	4,919	4,946	5,984	8,116	5,430
	整形外科	4,721	4,808	5,505	5,078	4,905
	耳鼻咽喉科	5,248	5,135	5,647	5,297	5,793
	眼 科	3,986	4,124	4,201	4,175	4,129
	皮 膚 科	3,034	3,111	3,304	3,451	3,206
	泌尿器科	8,935	9,317	10,452	10,157	10,640
	精神神経科	1,920	-	9,022	6,518	5,112
	平均	11,509	12,105	12,268	12,442	12,559



3 病院の現状⑤(主な診療科の状況(入院))

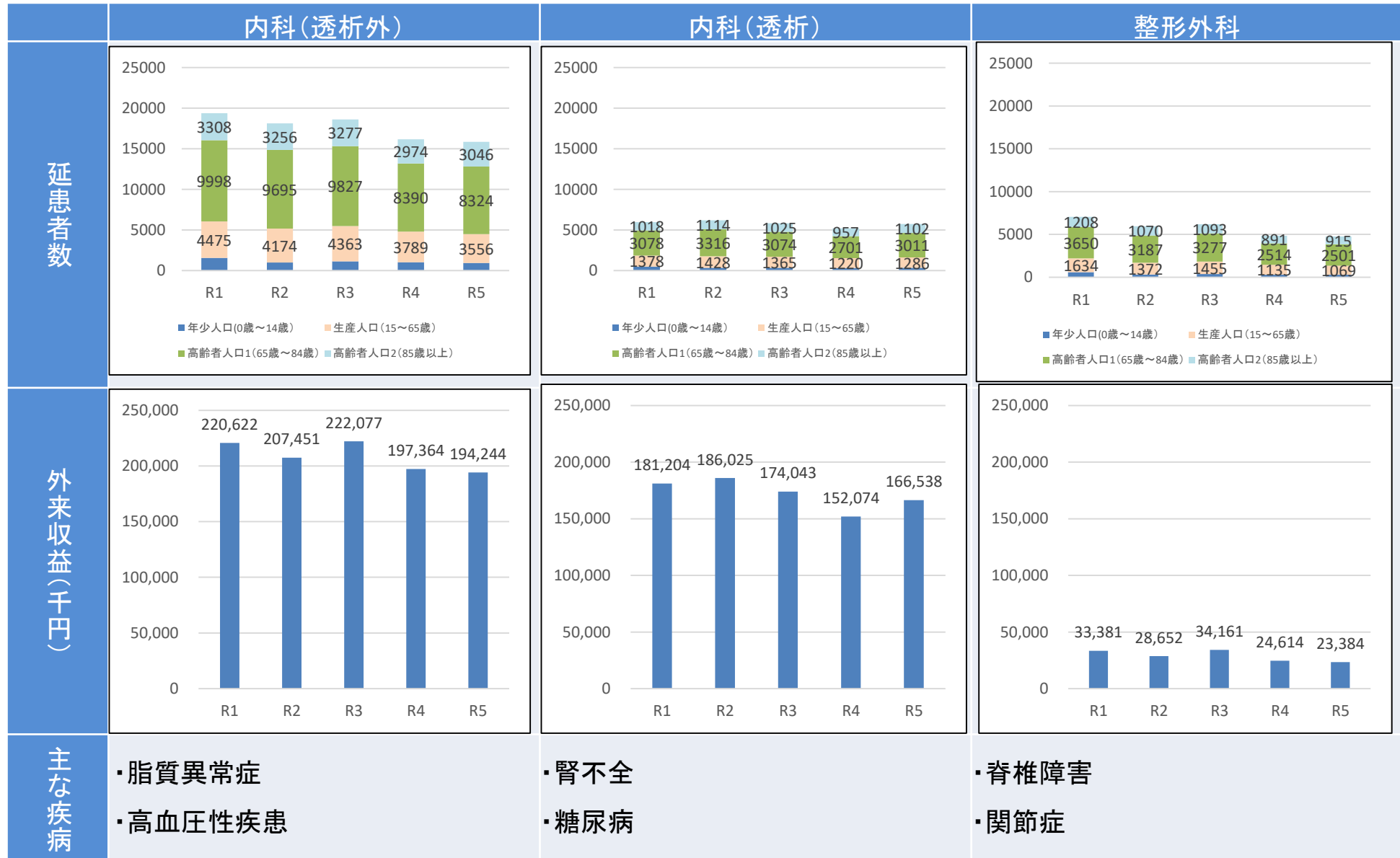
(4) 延べ患者数及び入院収益の推移



※主な疾病については、国保連から提供された患者データの主病名を集計し、件数の多いものを記載。

3 病院の現状⑥(主な診療科の状況(外来))

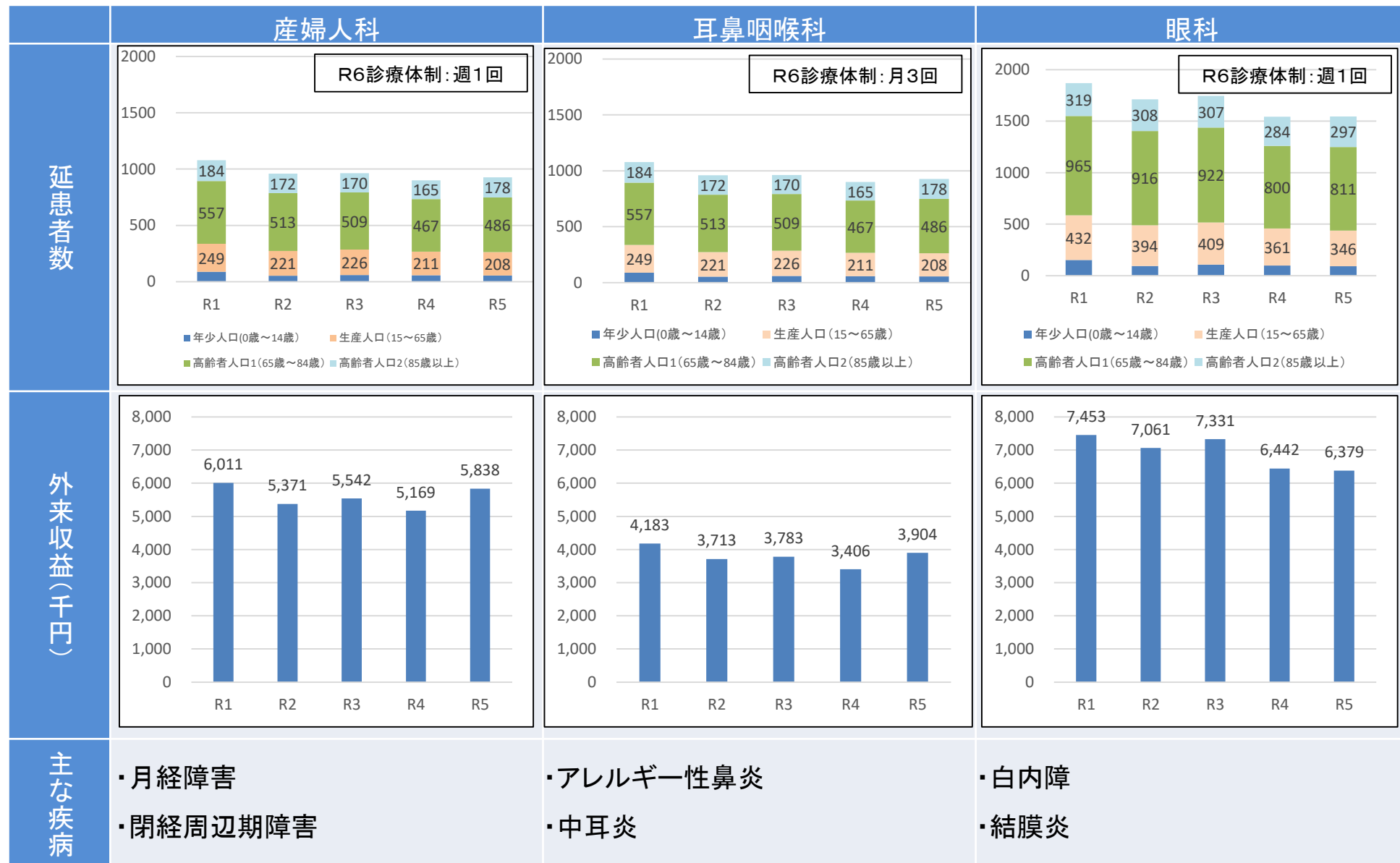
(5) 延べ患者数及び外来収益の推移



※主な疾病については、国保連から提供された患者データの主病名を集計し、件数の多いものを記載。

3 病院の現状⑦-1（非常勤医師のみの診療科の状況（外来））

（5）延べ患者数及び外来収益の推移



※主な疾病については、国保連から提供された患者データの主病名を集計し、件数の多いものを記載。

3 病院の現状⑦-2(非常勤医師のみの診療科の状況(外来))

(5) 延べ患者数及び外来収益の推移



※主な疾病については、国保連から提供された患者データの主病名を集計し、件数の多いものを記載。

3 病院の現状⑧(医療機関連携・医師確保)

(6) 地域の医療機関間連携

- 同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院や地域の医療機関と連携を図りながら診療体制の確保に努めている。
- 相互応援は、留萌市立→道立羽幌 月1回、道立羽幌→留萌市立 月2回。

【主な紹介・逆紹介件数】 ※近隣町村の医療機関との紹介・逆紹介件数ともに年10～20件程度

病 院 名 (逆 紹 介)	R1	R2	R3	R4	R5
留萌市立病院	249件	255件	218件	248件	226件
留萌セントラルクリニック	53件	71件	65件	50件	46件
旭川赤十字病院	80件	79件	78件	89件	68件
病 院 名 (紹 介)	R1	R2	R3	R4	R5
留萌市立病院	180件	149件	200件	180件	140件
留萌セントラルクリニック	44件	37件	51件	54件	26件
旭川赤十字病院	55件	51件	51件	67件	30件

(7) 医師確保(総合診療専門研修プログラム)

- 平成29年度(2017年度)より総合診療科としての診察を開始。
- 総合診療専門研修プログラムを整備し、専攻医を確保。

【専攻医確保状況】※年度当初の状況

R1	R2	R3	R4	R5	R6
1人	3人	3人	1人	2人	4人

【(参考)自治医大卒 義務年限中】※年度当初の状況

R1	R2	R3	R4	R5	R6
2人	2人	2人	1人	2人	1人

3 病院の現状⑨(離島支援・人工透析)

(8) 離島支援・巡回診療の状況

- 離島の診療所の常勤医が配置されていない場合、医師派遣により支援を実施。
- 令和6年度は焼尻診療所の医師未配置のため、派遣実施。
- 周辺準無医地区に対し、巡回診療を実施。

【医師派遣実績】

	R1	R2	R3	R4	R5
天売診療所	10回	6回	—	—	—
焼尻診療所	—	17回	—	—	—

【巡回診療実績】

	R1	R2	R3	R4	R5
羽幌町築別・上築・曙地区	12回	12回	12回	—	—
羽幌町中央地区	12回	12回	12回	—	—
苫前町九重地区	6回	6回	6回	6回	6回
苫前町小川地区	6回	6回	6回	6回	6回

※R3までは羽幌町内の2地区において各地区月1回実施していたが、R4からは患者不在のため休止。

(9) 人工透析

【人工透析実績(実人数(月平均))】

R1	R2	R3	R4	R5
38.7人	40.5人	37.9人	34.6人	37.5人

3 病院の現状⑩(地域連携)

(10)入院前後の患者居住地

入棟前の場所	R1		R2		R3		R4		R5	
	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア
家庭からの入院	539	16	479	45	494	33	410	70	453	54
他の病院、診療所からの転院	25	0	36	0	34	0	36	0	29	0
介護施設・福祉施設からの入院	93	7	93	9	91	5	59	6	97	2
その他	16	0	15	0	1	0	0	0	0	0
当初、家庭等から急性期一般病床に入院し、その後、同一病棟内の急性期一般から移動		124		105		125		88		126
合計	673	147	623	159	620	163	505	164	579	182

退棟先の場所	R1		R2		R3		R4		R5	
	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア	全体	うち地ケア
家庭へ退院	469	89	434	117	429	112	333	123	351	115
他の病院、診療所へ転院	64	9	65	3	69	5	58	10	71	6
介護施設・福祉施設に入院	83	33	91	30	96	39	61	28	81	43
うち介護老人保健施設に入所	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
うち介護老人福祉施設に入所	46	17	43	20	48	22	25	12	80	26
うち社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	37	16	48	10	47	16	36	16	0	16
終了(死亡退院等)	62	6	49	7	48	6	52	3	68	1
その他	5	0	5	1	0	0	0	0	0	0
合計	683	137	644	158	642	162	504	164	571	165

3 病院の現状⑩(受療動向)

- 令和5年度の入院受療動向によると、留萌中部(羽幌町・苫前町・初山別村)住民は、羽幌町内(＝羽幌病院)に10.7%、留萌市内に41.6%、上川中部圏域に24.9%、札幌圏域に18.3%が入院。他圏域への入院は、疾病別で、脳血管疾患76.5%、骨折56.1%、精神疾患49.1%の順が多いが、これは機能分担に伴うものと考えられる。
- また、外来は、自町村での受療が、羽幌町58.5%、苫前町45.7%、初山別村46.4%となっているほか、留萌圏域内での受療が全体で85.1%と、近隣や圏域において一定程度完結しているものと考えられる。

【入院(近隣町村状況)】

区分	留萌市	上川中部	札幌	その他	羽幌町
留萌中部	41.6%	24.9%	18.3%	4.6%	10.7%
羽幌町	38.1%	27.0%	21.8%	2.5%	10.6%
苫前町	41.6%	25.1%	18.0%	4.6%	10.7%
初山別村	49.6%	12.1%	18.2%	9.5%	10.6%

【外来(近隣町村状況)】

区分	留萌市	上川中部	札幌	その他	羽幌町	自町村
留萌中部	23.8%	5.8%	5.4%	3.6%	40.7%	63.7%
羽幌町	20.7%	6.3%	7.1%	7.4%	58.5%	—
苫前町	27.1%	5.8%	4.4%	1.2%	14.9%	45.7%
初山別村	15.9%	4.9%	5.8%	5.8%	21.2%	46.4%

【圏域単位での動向】

区分	留萌	札幌	上川中部	北空知	その他
入院	留萌圏域 55.2%	16.7%	19.4%	3.3%	5.4%
外来	留萌圏域 85.1%	5.0%	5.6%	1.5%	2.8%

【(参考)入院※疾病別の受療動向】

入院	受診した医療機関の所在地													
	留萌管内(医療機関所在市町村名)									他圏域(内数記載は主な圏域)				
	留萌市	増毛町	小平町	苫前町	羽幌町	初山別村	遠別町	天塩町		札幌	中空知	北空知	上川中部	
がん	63.7%	60.6%			2.6%			0.5%	36.3%	6.1%	5.3%	6.0%	17.7%	
骨折	43.9%	41.5%			2.1%		0.1%	0.1%	56.1%	28.3%	3.9%	19.3%	4.6%	
心疾患	72.7%	30.6%			36.6%			5.6%	27.3%	1.9%	9.3%	3.2%	12.0%	
精神疾患	50.9%	49.2%			1.4%			0.3%	49.1%	10.1%	12.5%	18.1%	5.7%	
糖尿病	81.6%	79.8%			0.5%			1.3%	18.4%	3.6%	2.4%	1.9%	2.4%	
脳血管疾患	23.5%	22.7%			0.6%			0.1%	76.5%	33.8%	0.2%	2.6%	38.5%	

3 病院の現状⑫(各経営指標)

○ 令和4年度の羽幌病院の病床利用率等の経営指標は、総務省が公表している直近の令和4年度の全国自治体病院の類似病院や道内類似病院の数値には至っていない。

【羽幌病院と全国自治体病院等との経営指標の比較】

経営指標 (R4実績)		羽幌病院	全国類似平均	道内類似病院	
				A病院	B病院
運用病床【許可病床】		45床【91床】	—	60床【60床】	58床【58床】
病床利用率		52.7%	58.9%	38.7%	52.3%
医業収支比率		52.4%	73.2%	64.8%	67.3%
職員給与費対医業収益比率		104.0%	76.5%	91.8%	75.1%
医師1人1日 当たり患者数	入院	2.8人	6.5人	4.6人	5.1人
	外来	10.8人	13.3人	20.5人	18.6人
看護部門1人 1日当たり患者数	入院	0.6人	0.9人	0.5人	0.6人
	外来	2.4人	1.9人	2.4人	2.1人

※羽幌病院の病床利用率は、運用病床ベース

※医業収支比率及び給与費対医療収益比率は、損益ベース(税抜)のため、プラン収支(他会計負担金を除く税込)の数値とは異なる。

※全国類似平均は、全国自治体病院で許可病床50床～100床未満の病床規模の病院の平均値

※道内類似病院は、許可病床及び運用病床が同規模で入院基本料区分が一致しており、地域包括ケア病床を有している公立病院の数値

4 年間事業実績の推移

- 他会計負担金及びコロナ補助金を除いた令和5年度の収支差は、患者数の減少などにより医業収益が令和元年度と比較して90百万円減少、費用も令和元年度比56百万円減少したが、▲745百万円となっている。

(単位:百万円)

区分	R1		R2		R3		R4		R5		R5-R1
	プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	実績
収 益 (A)	1,087	1,095	1,123	997	924	1,005	956	862	946	920	▲ 175
医 業 収 益	898	905	929	807	793	869	841	747	843	815	▲ 90
うち入院収益	353	387	381	307	302	339	316	288	340	342	▲ 45
うち外来収益	512	487	514	468	463	480	494	421	471	432	▲ 55
医 業 外 収 益	186	189	191	188	127	134	113	115	103	105	▲ 84
特 別 利 益	3	1	3	2	4	2	2	0	0	0	▲ 1
費 用 (B)	1,763	1,721	1,758	1,708	1,802	1,718	1,836	1,685	1,749	1,665	▲ 56
収 支 差 (C=A-B)	▲ 676	▲ 626	▲ 635	▲ 711	▲ 878	▲ 713	▲ 880	▲ 823	▲ 803	▲ 745	▲ 119

※医業外収益は、他会計負担金及びコロナ補助金を除いた数値

5 羽幌病院の経営上の課題と方向性(案)

課 題

【地域の医療ニーズに応じた医療提供体制の構築】

- 留萌医療圏は他の第二次医療圏よりも速いスピードで人口減少しており、羽幌病院の患者数は、コロナ禍前と比較して入院・外来共に減少している。また、生産年齢人口の減少により、今後、医療従事者の確保も困難となることが想定される。
- 羽幌病院が所在する留萌中部(羽幌町、苫前町、初山別村)は、第二次医療圏内でもう1つの地域センター病院である留萌市立病院から約50kmの距離があり、羽幌病院以外に病床を有する医療機関も無いことから、今後の患者減少や医療従事者の減少に対応しながら、地域の医療ニーズに応じた医療提供体制の構築が必要。

【離島をはじめとしたへき地医療支援】

- 離島の2つの道立診療所(天売・焼尻)は、常勤医が長期で不在となることもあることから支援が必要。
- その他の無医地区、準無医地区の通院が困難な高齢患者に対応した医療提供体制の確保が必要。

【医師をはじめとした医療従事者の確保】

- 医育大学からの常勤医の派遣がない中で、安定的な医療提供体制を維持するための独自の取組が必要。



病院の方向性(案)

【地域の医療ニーズに応じた医療提供体制の構築】

- 地域のニーズを適確に捉え、周辺医療機関等との機能分化や地域連携室を中心とした連携により患者確保を図るとともに、今後も一定の患者数が見込まれる高齢患者の早期の在宅復帰のために必要な地域包括ケア病床やリハビリテーション専門職の配置など医療機能を確保していく。
- 将来の患者数等も踏まえつつ、病院機能の最適化や休床部分の有効活用について検討していく。

【離島をはじめとしたへき地医療支援】

- へき地医療拠点病院としてICTも活用しながら医療支援に努める。

【医師をはじめとした医療従事者の確保】

- 引き続き、総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、専攻医を確保していくこととし、専門研修プログラム等の更なる広報、道内外勤務医師への募集活動及び視察の受入れ等により、総合診療医や地域医療を志す医師の育成を行いつつ、医療提供体制を維持していく。

6 病院の今後の方向性(イメージ)

区分

病院の役割・機能
の最適化

地域連携

へき地への
診療支援

医療従事者の
確保

検討のポイント

医療ニーズ
の縮小

医療提供の
効率化

高齢患者への
対応

包括期機能
不足への対応

働き方改革
への対応

非常勤医診療
科のあり方

関係機関との
連携

ICTの活用

持続的な
医師確保

対応の方向

①地ケア病床・リハビリ
の機能維持

②在宅医療等
の拡充

③規模の最適化

④相互の医師派遣等
も含めた連携

⑤離島への支援や
へき地診療

⑥専攻医の確保

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【病院の役割・機能の最適化①】

① 高齢患者の早期の在宅復帰のための地域包括ケア病床(回復期機能)の機能維持

具体的な対応

- 地域医療構想調整会議での医療圏における将来の包括期(現在:回復期)機能の議論
- 現在暫定配置となっているPTの効果検証を行い、必要な人員配置に向け検討

留意事項

- 医療従事者の不足などによる病床休止により医療圏で回復期機能が不足していることから、あらためて役割分担の議論が必要
- 令和3年度からPTを+1名配置しているが暫定配置

- 留萌市立病院では職員不足による病床休止により、留萌中部以南に回復期機能の病床はない。
- 医療機関の廃止等に伴い、慢性期機能の病床も不足。
- 今後、緩やかに減少する高齢患者の早期の在宅復帰のため地域包括ケア病床やリハビリ機能を維持していく必要がある一方で、医療圏の将来の包括期(現:回復期)機能の確保の方向性の議論が必要。

直近(R6.7.1時点)の病床数

医療機関名	許可 病床数	稼働 病床数	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
道立羽幌病院	91	45	0	60	0(15)	0	31
留萌市立病院	296	246	0	202	44	0	50
留萌記念病院	117	117	0	0	0	117	0
遠別町国保診療所	19	19	0	0	0	19	0
天塩町国保病院	48	48	0	0	48	0	0
医療法人社団孝仁会 留萌セントラルクリニック	19	19	0	19	0	0	0
合 計	590	494	0	281	92(15)	136	81
2025年の予定	590	—	0	281	92	171	50
必要病床数(2025年)	563	—	35	142	191	195	—

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【病院の役割・機能の最適化②】

② 多様な医療ニーズに備え、在宅医療の拡充の検討

具体的な対応

- 医師等の負担軽減のため、ICT(遠隔医療)の活用
- 医師の負担軽減のため、ナースプラクティショナー(NP)の確保も検討
- マンパワーを踏まえた収支シミュレーション
- 訪問看護や介護事業所の将来的な体制確保の確認

留意事項

- 常勤医の半数以上が専攻医であり、拡充後に医師が確保できなかった場合、体制縮小は困難なため、医師等の負担増に繋がる恐れ
- 医師の当直配置等(在宅療養支援病院を目指す場合)
- 在宅患者増に伴い、それを支える訪問看護や介護事業所の対応能力が必要(現状、訪問看護は職員確保が難しく、24時間対応は困難)

- 今後、患者の高齢化により在宅医療へのニーズが高まっていくと見込まれるため、医師、看護師、訪問看護師も含めた関係機関の状況を踏まえた検討が必要。

羽幌病院における在宅医療の実施状況

	R1	R2	R3	R4	R5
往診料	3件	2件	8件	35件	9件
在宅患者訪問診療料 (同一建物居住者以外)	76件	44件	97件	83件	70件
在宅患者訪問診療料 (同一建物居住者)	633件	427件	646件	597件	683件
看取り加算	3件	2件	8件	5件	9件

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【病院の役割・機能の最適化③】

③ 将来的な人口減少による患者減少を踏まえた規模の最適化の検討

具体的な対応

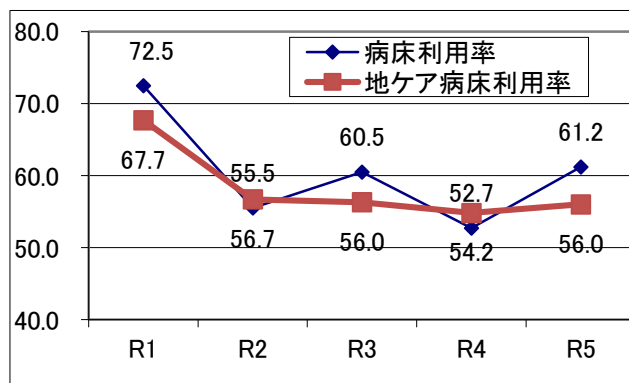
- 更なる人口減による患者減を見据えて、将来の効率的な病院運営に向けた規模の最適化(病床数、非常勤医師診療科の診療体制等)の検討

留意事項

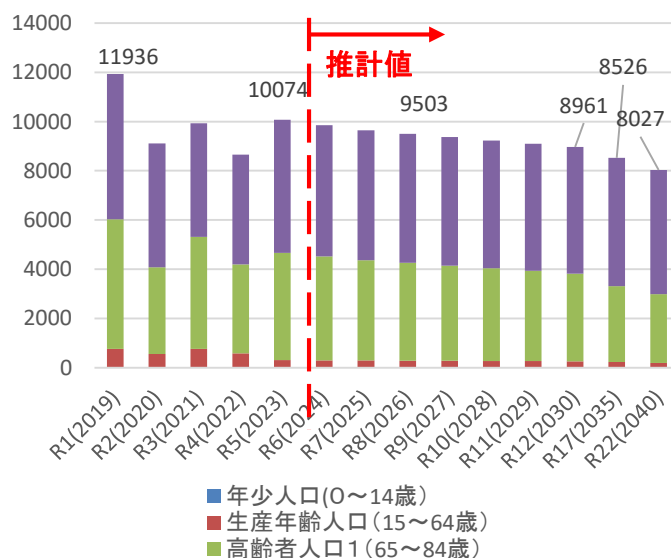
- R6病床利用率(4-10月)は50%を下回っている状況
- R12年にはR5年度比で入院患者は約11%、外来は約16%の減少が見込まれる
- 近隣医療機関の廃止や減床している状況から、更なる削減には地域の理解が必要(R6.4に120床→91床に減)

【病床利用率】

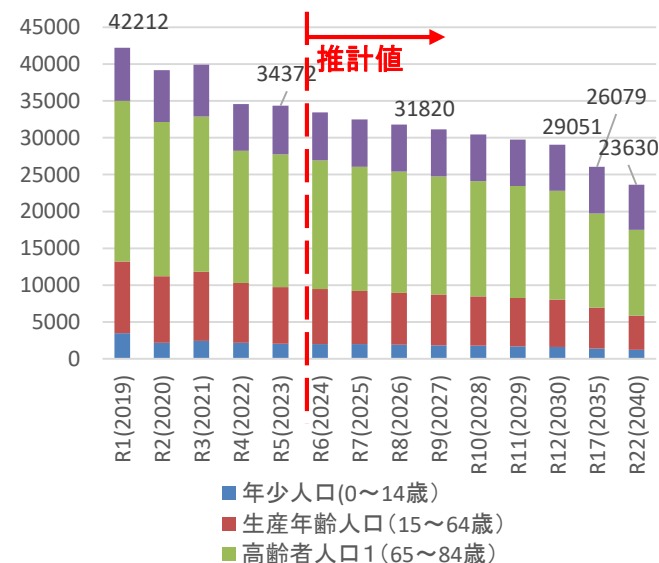
運用病床(45床)ベース
地ケア病床は15床



【入院患者数推計】



【外来患者数推計】



7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【病院の役割・機能の最適化③】

【近隣医療機関の状況】

<非常勤医師診療科>

医療機関名称	所在市町名	診療曜日	備考
産婦人科			
留萌市立病院	留萌市	月～金	
耳鼻咽喉科			
留萌市立病院	留萌市	月・火(予約制)	
医療法人社団碧連会開運町わたなべ耳鼻咽喉科	留萌市	月～土	
眼科			
留萌市立病院	留萌市	月～金	
銭丸眼科	留萌市	月～土	
医療法人朱光会オロロンライン眼科	留萌市	月～土	
皮膚科			
留萌市立病院	留萌市	月・火・木	
JA北海道厚生連苫前厚生クリニック	苫前町	月～金	内科、小児科とともに標榜
泌尿器科			
留萌市立病院	留萌市	水(予約制)	
西原腎・泌尿器科クリニック	留萌市	月～土	
精神神経科			
留萌市立病院	留萌市	木(予約制)	
荻野病院	留萌市	月～金	

<その他診療科>

医療機関名称	所在市町名	診療曜日	備考
整形外科			
留萌市立病院	留萌市	月、水、木、金	
留萌記念病院	留萌市	月、火	
医療法人社団慈恵会わたべ整形外科医院	留萌市	月～土	第2・4火曜 羽幌病院で診察
医療法人社団整形外科稲垣医院	留萌市	月～土	
医療法人社団富山整形外科	留萌市	月～土	
小児科			
留萌市立病院	留萌市	月～金	
北海道立焼尻診療所	羽幌町(焼尻島)	月～金	内科とともに標榜
北海道立天売診療所	羽幌町(天売島)	月～金	〃
初山別村立初山別・共成・豊岬・有明診療所	初山別村	月～金	〃
JA北海道厚生連苫前厚生クリニック	苫前町	月～金	内科、皮膚科とともに標榜
医療法人社団オロロン会苫前クリニック	苫前町	月～金	内科とともに標榜

【参考(再掲)】診療体制(外来)が非常勤医師のみの診療科の状況(R5)

区分		産婦人科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	精神神経科
患者数		927	674	1,545	1,761	1,468	98
年間実診療日数		49	25	71	47	50	12
外来実診療日数における 一日平均患者数		18.9	27.0	21.8	37.5	29.4	8.2
収益(千円)	A	5,838	3,904	6,379	5,646	15,619	501
非常勤医師報酬・手当額(千円)	B	10,290	5,186	12,600	9,742	10,500	4,452
非常勤医師旅費(千円)	C	1,141	361	1,120	996	956	264
医薬材料費(千円)※	D	22	15	11	107	4,283	
差(A-B-C-D)(千円)		▲ 5,615	▲ 1,658	▲ 7,352	▲ 5,199	▲ 120	▲ 4,215

※手術等で包括されるものを除く。薬剤については、費用ではなく収益から試算したため、過大となっている。

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【地域連携】

④ 地域センター病院である留萌市立病院との連携

具体的な対応

- 引き続き、両病院において、専門医等の医師の不足を補完するため、互いに医師派遣を実施(羽幌→留萌:総合診療 月2回、留萌→羽幌:循環器内科 月1回)
- 留萌市立病院との定期的な協議実施(R6は両院長打合せ、事務職員打合せを実施)

留意事項

- 圏域内の将来的な人口減による患者減少が見込まれることから、両病院で補完可能な機能・手法がないか検討が必要

- 留萌市立病院、羽幌病院ともに、多くの出張医により最低限の診療体制を維持。
- 留萌市立病院では、医療従事者確保が困難な状況等から地域包括ケア病床(44床)は休止中。

病 院 名 (逆 紹 介)	R1	R2	R3	R4	R5
留萌市立病院	249件	255件	218件	248件	226件
留萌セントラルクリニック	53件	71件	65件	50件	46件
旭川赤十字病院	80件	79件	78件	89件	68件
病 院 名 (紹 介)	R1	R2	R3	R4	R5
留萌市立病院	180件	149件	200件	180件	140件
留萌セントラルクリニック	44件	37件	51件	54件	26件
旭川赤十字病院	55件	51件	51件	67件	30件

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【離島を含むへき地への医療支援】

⑤ 離島への支援やへき地診療

具体的な対応

- NP確保や遠隔医療併用による医師負担の減
- 遠隔医療システムの活用
- 巡回診療の継続

留意事項

- 医師等の負担増(特に常勤医(専攻医)数の減となった場合)
※現状、焼尻診療所の常勤医が不在のため、月2回程度医師派遣支援
- 機器更新の際の費用負担
- 巡回診療の将来の必要性

【医師派遣実績】

区分	R1	R2	R3	R4	R5
天売診療所	10回	6回	—	—	—
焼尻診療所	—	17回	—	—	—

【巡回診療実績】

区分	R1	R2	R3	R4	R5
苫前町九重地区	6回	6回	6回	6回	6回
苫前町小川地区	6回	6回	6回	6回	6回

参考

＜人口(R6.11末現在)＞ ※羽幌町HP

天売島:246人(154世帯)

焼尻島:155人(111世帯)

＜医療資源＞

天売島:北海道立天売診療所

焼尻島:北海道立焼尻診療所

※R3までは羽幌町内の2地区において各地区月1回実施していたが、R4からは患者不在のため休止。

7 病院の今後の方向性(具体的検討案)【医師を含めた医療従事者の確保】

⑥ 安定的な医療提供体制確保のため総合診療専門研修プログラムによる一定数の専攻医の確保

具体的な対応

- 引き続き、専攻医の確保のため羽幌病院や専門研修プログラム等の魅力の広報、道外勤務医師への募集活動及び視察の受入等の活動を実施
- 圏域全体の医療提供体制確保のため、圏域内の医療機関との連携も行いながら医師を育成

留意事項

- 専攻医の確保できる数が未知数

(専攻医の状況(R6年度))

1年目:3名、2年目:1名

※現在、R7年度から新たに採用が確定している専攻医はいない

- 総合診療科(内科)の常勤医7名のうち、4名は専攻医の状況であり、安定的な医療提供体制の確保のためには専攻医の確保は重要。

- 現行プログラムの圏域内の連携施設は、留萌市立病院、初山別村立初山別診療所、遠別町国保診療所。

【専攻医確保状況】※年度当初の状況

R1	R2	R3	R4	R5	R6
1人	3人	3人	1人	2人	4人

【(参考)自治医大卒 義務年限中】※年度当初の状況

R1	R2	R3	R4	R5	R6
2人	2人	2人	1人	2人	1人

8 病院の今後の方向性(まとめ)

区分	対応の方向性	具体的な対応(案)	留意事項
病院 の 役割・ 機能 の最 適化	①地域包括ケア病床 (回復期機能)の機 能維持	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域医療構想調整会議での医療圏における包括期(回復期)機能の議論 ○ 暫定配置のPTの効果検証を行い、必要な人員配置に向け検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療圏の包括期(回復期)機能不足による役割分担の議論 ○ PT1名は暫定配置
	②在宅医療の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT(遠隔医療)の活用 ○ ナースプラクティショナー(NP)確保 ○ マンパワーも踏まえた収支シミュレーション ○ 訪問看護や介護事業所の将来的な方向性確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師等の負担増に繋がる恐れ ○ 医師の当直配置等(在宅療養支援病院となる場合) ○ 訪問看護や介護事業所の対応能力
	③規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 更なる人口減による患者減を見据えて将来の効率的な病院運営に向けた規模の最適化(病床数、非常勤医師診療科の診療体制等)を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ R6病床利用率(4-10月)は50%を下回っている状況 ○ 入院・外来患者共にR12IにはR5年度比で減少 ○ 近隣医療機関の廃止や減床している状況から、更なる削減に伴う地域の理解
地 域 連 携	④留萌市立病院との 連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門医等の医師の不足を補完するため、互いに医師派遣を実施 ○ 留萌市立病院との定期的な協議実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 両病院で補完可能な機能・手法の検討
へき 地へ の診 療支 援	⑤離島への支援や へき地診療	<ul style="list-style-type: none"> ○ NP確保や遠隔医療併用による医師負担の減 ○ 遠隔医療システムの活用 ○ 巡回診療の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医師等の負担増(特に常勤医(専攻医)が減少の場合) ○ 機器更新の際の費用負担 ○ 巡回診療の将来の必要性
医療 従事 者の 確保	⑥総合診療専門研修 プログラムによる一 定数の専攻医確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専攻医の確保のため羽幌病院や専門研修プログラム等の魅力の広報、道外勤務医師への募集活動及び視察の受入等の活動を実施 ○ 圏域内の医療機関との連携による育成の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専攻医の確保できる数が未知数